

(様式1)

自己評価票

作成日 平成25年4月18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892000100		
法人名	社会福祉法人 筑南会		
事業所名	ケアサポート田村	ユニット名	—
所在地	〒305-0854 茨城県つくば市上横場2290-6		
自己評価作成日	平成24年11月16日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_021_kani=true&JigyosyoCd=0892000100-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年1月21日	評価確定日	平成25年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>美味しい食事を用意し、月に2回「つくば御膳」月に1回選択食の日を設け、日を決め手作りのおやつを提供している。家族の要望のある方には、夕食を提供してから送ることで家族の負担を軽減できるよう取り組んでいる。習字クラブやアコーディオンのボランティアの協力有。外出も頻繁に行い、同法人の特別養護老人ホームの行事には全員が参加できるように支援し、気分転換を図っている。1階に協力病院がある為、利用者や家族の安心に繋がっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は2階建ての2階部分に位置し、1階には医院が併設されている。 運営母体の法人は、事業所の近隣に特別養護老人ホームや通所介護事業所、訪問介護事業所など利用者の健康状態に応じてケアサービスの提供ができるよう各種多様な福祉施設を運営している。 代表の自宅が同一敷地内にあり、緊急時にも職員と連携して即座に対応ができるため、利用者や家族等の安心につながっている。 事業所は習字やオカリナ、アコーディオンなどのボランティアを受け入れているほか、積極的に馴染みの場所に外出するなど、利用者本位の支援に努めている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、入口正面の壁面に提示し、日々のケアの中で、職員に意識付けを図り実践につなげている。	開設時に全職員で話し合っ地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、玄関正面の壁面に大きく掲示している。 朝のミーティング時にその日のリーダーが中心となって理念を唱和し、確認を行いながら実践につなげるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自家菜園での芋掘りに近隣住民を招待したり、JA谷田部の農業祭に職員と一緒に出かけている。アコーディオン・習字・オカリナ演奏にボランティアの協力有。利用者も楽しみにしている。	事業所が主催する自家菜園での芋掘りやクリスマス会に地域住民を招待しているほか、毎年行われる地元の農業協同組合主催の農業祭にその日の利用者と職員で出かけ、買い物や地域の人々との交流を楽しんでいる。 月1回アコーディオンやオカリナ演奏、習字などの地域のボランティアを受け入れ、地域交流の輪を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域貢献ができていない状態である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生員、地域住民、市職員の参加を得て3カ月に1回開催し、利用状況や活動状況を報告し、出た意見等をサービスの質の向上に活かせるよう取り組んでいる。	運営推進会議は家族等や市職員、民生委員、法人代表者、管理者、職員で3ヶ月に1回第4月曜日の午後に開催している。 委員から「外出時の様子がわからない」との意見を受け、去年は外出行事の様子をビデオに撮影し、DVDに編集して家族等や委員に観てもらおうなど、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回の地域密着事業所連絡会に参加し、情報交換している。包括支援センターや社会福祉課。社会福祉協議会の職員と連携を取り協力を得て困難ケースに対応している。	管理者は月1回開催する市主催の地域密着型連絡会に参加して市担当者と情報交換をしているほか、市担当者や地域包括支援センター職員と連絡を密に取り、一緒に一人暮らしの高齢者宅を訪問するなど、協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や勉強会、研修会に於いて身体拘束の内容とその弊害を理解させ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除に関する法人の研修会と事業所独自の研修会を年1回ずつ開催しており、全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解している。 身体拘束排除マニュアルや経過観察記録、同意書の書類を整備している。 何度となく車いすから転倒し、骨折などの危険性のある利用者にY字ベルトを使用した事例があるが、やむを得ず身体拘束をする場合には家族等に電話で連絡して状況を説明し、後日書面で同意の記名捺印を得るとともに、身体拘束解除に向けて職員で話し合っている。 事業所が2階にあるため、安全性を考慮して家族等の同意を得て階段の扉を施錠しているが、1階の出入り口は自由に開閉できるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学び、自宅や事業所内で虐待の可能性がないか注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の職員の協力を得て、自宅への訪問、事業所での本人への聞き取り時の立ち会い等、自立生活支援事業が活用できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用を開始する前には自宅を訪問し、契約について説明し、本人や家族が納得してから契約を締結している。質問や相談に応じ、安心して利用利用できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記するとともに、玄関に意見箱を設置している。家族からは連絡町や電話、来訪時に意見や要望を聞き事業所に持ち帰り、運営に反映させている。	重要事項説明書に事業所や第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに、玄関に意見箱を設置している。 管理者は毎月利用者宅を訪問してモニタリングを実施する時に、家族等の要望を聴いている。 連絡帳を活用し、利用者の状況報告だけでなく希望を記載してもらっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開催したり、個別に意見や要望を汲み上げている。	管理者は月1回開催する全体会議で職員の意見や要望を聴取するだけでなく、必要に応じて個人面談を実施している。 管理者は職員の休暇の希望を聞いて勤務表を作成しているほか、職員から要望があればできる範囲で運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が安心して仕事に専念できるよう職場環境、条件の設時に努めている。職員旅行を実施し、法人内の各部署職員とのつながりにも力を入れ取り組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知識や技術の向上の為に、定期的にPTによる勉強会や法人内外の研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着事業所連絡会、認知症ネットワーク、医療福祉事例検討会に参加し、地域の先生との連携を通じて、さまざまな情報を得ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人にとって必要な支援を安心して利用できるよう、傾聴する時間を持ち、信頼関係を築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に行う訪問や説明を丁寧に行い、家族も安心してサービスを利用できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から話を聞き、必要としている支援を検討し、さまざまなサービス利用の可能性や有効性を説明し、より有効なサービス利用を検討していることに努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気を大事にし、ご利用者に洗濯たたみやテーブル拭き、清掃、下膳等手伝ってもらい、施設内での役割を持ち、意欲や自信を持って生活できるように取り組んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	さまざまな介護の困難や悩みを聞き介護上のアドバイスをを行い、事業所と協力して介護していく関係を築くことに取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初詣や花見、紅葉見学等年間行事計画を立て、利用者が馴染みの場所に出かけたり、法人の行事に参加し、兄弟や知人と会う機会を持てるよう支援している。	事業所の近隣にある利用者の馴染みの花屋に行けるよう職員が付き添ったり、家族等や親戚からの電話を取り次ぐなど、利用者がこれまで大切にしてきた場所や関係が途切れないよう支援している。 近親者の墓参りなど、職員が対応できない利用者の要望は家族等に伝え、家族等の協力を得ながら実現できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	よりよい関係が築けるよう食事席やご利用者同士の関係に配慮して安心して過ごせるに取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスや利用が終了してからも、その後の状況把握や施設入所相談等、フォローしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は利用者のかかわりを等して思いや意向の把握に努め、利用者の情報を記録に残し、全職員が共有できるようにしている。	職員は利用者のアセスメントのほか日々の言動や表情、しぐさから思いや意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は表情から思いを推し量るほか、連絡帳を通じて家族等から情報を得たり、業務日誌に利用者の様子を細かく記載し、利用者本位のケアに努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、サービス提供に活かしている。	/		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活の状況を本人や家族から聞き取り、サービス提供中も本人ができることはやっていただくよう支援している。				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、6ヶ月毎にサービス計画書を見直し、利用者や家族に確認を得ている。要介護認定の更新時に合わせてサービス担当者会議で利用者や家族の希望を聞き、計画書を作成している。	利用者毎の担当職員が介護計画案を作成し、それを基に介護支援専門員が利用者や家族等、医師などの意見を取り入れて介護計画を作成しているほか、週間計画を作成している。 介護計画は3ヶ月または6ヶ月毎に見直すとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は随時現状に即した介護計画に見直しているが、利用者の介護日誌に記載漏れがみられる。	日々のケアの中で知り得た利用者の情報を介護日誌に記録するとともに、全職員で共用することを期待する。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を業務日誌、介護記録、申し送りノートに記載するとともに、全職員で共有し変化などを話し合う機会を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望にもその都度対応しており、特に独居の方は、身体状態観察の為にデイサービスから泊りを利用する等、柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や社会福祉課と連携するなどして地域資源を有効に活用するよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族の付き添いを基本としているが、家族が対応できないときは看護師や管理者で対応している。往診を依頼している主治医と連携を取り、病銃の安定・改善に努めている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を第一に考え支援している。受診は原則家族等が行うこととなっているが、家族等の付き添いが困難な場合は管理者か看護職員が同行している。受診結果は受診記録帳に記載するとともに、電話や連絡帳で家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤しており、健康管理や医療的なかわりを持っている。検査の結果の報告を家族に報告すると共に、職員にも周知し共有している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を作成し、退院時には退院カンファレンスや家屋調査に同行し、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同法人の特別養護老人ホーム入所待ちをしておられ、重度化した場合は法人の入所担当者と家族と話し合い、空き状況を見ながら、入所できるよう支援している。緊急時の対応について家族の同意を得ている。	重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を作成していなかったため、前回の外部評価で改善を求められていたが、その後全職員で話し合っ看取りは行わないこととしている。 急変などの緊急時には救急車で病院に搬送することとし、書面で同意を得るとともに希望する搬送先病院を確認しているが、利用者が重度化した場合にどのような対応を行うのか具体的な指針を作成したり、全職員で共有するまでには至っていない。	契約書や重要事項説明書に事業所では看取りは行わない方針であることを明記するとともに、重度化した場合の具体的な対応指針を管理者や職員、医師などの関係者で話し合い、決定することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受け普通救命講習修了証の交付を受けている。緊急時の連絡網を整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署員立会いの下、日中を夜間想定で避難訓練を行っている。近所の人に災害時の強力を依頼するなど、地域との連携にも努めている。災害時に備えて、米や飲料水・調味料等を備蓄している。	年2回消防署立会いのもと夜間の火災を想定した総合訓練を実施しているほか、委託業者立会いのもと消防署に通報する通報設備や誘導灯、非常ベルの定期点検を実施している。 避難訓練後は実施記録を作成し、消防署の講評や反省点を記録するとともに次回の訓練に活かしているが、避難訓練に地域住民の参加を得るまでには至っていない。 災害に備え懐中電灯や毛布、米などの食糧、水を常時1週間分備蓄するとともに、備蓄品のチェックリストを作成している。	事業所は2階にあり災害時の避難には困難が予測されるため、災害時に多くの地域住民の協力が得られるよう近隣の商店や区長、地元の消防団などに働きかけ、協力関係を構築することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者にわかりやすい言葉で話しかけ、余暇活動や行事への声かけ・誘導を行い、本人の意思を尊重するよう働きかけている。個人情報の書類は、ロッカーに保管している。	職員は利用者に対して呼び方や言葉遣いに配慮しているほか、トイレ誘導は利用者の耳元で声かけをするなど、利用者の尊厳を大切に支援している。 契約書や同意書など個人情報に関する書類は、管理者が事務室の施錠ができるロッカーで一元的に管理し、情報の漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食はその人の好きな時間に食べており、余暇活動への参加は、本人の意思を確認し、参加・不参加を決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご利用者が本人のペースで生活できるよう対応している。体操や余暇活動にも本人の希望で参加し、無理強いしない様取り組んでいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回ビューティーサービスを依頼。希望の方には1,500円で散髪することができ、さっぱりしてもらっている。活動の中で化粧（口紅やマニキュア）をして、おしゃれをする楽しみを味わってもらっている。男性は毎朝、髭剃りの支援をしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士によりカロリー計算され、栄養バランスの取れた食事を提供している。月に2度「つくば御膳」を設け、ケアサポートと同法人の特養にいき、いつもと違った環境で食事をしたり、選択食の日や、法人の調理師が来て料理する日を設けている。	市内にある同一法人の施設の管理栄養士が献立を作成し、朝食のみ事業所内で調理しているが、昼食と夕食は他施設の厨房で調理したものを職員が運んで食事を提供している。 利用者の健康状態に合わせて調理方法を変えたり代替食を提供しているほか、月2回特別食を提供したり、月1回主食を2種類から選択できる日を設けている。 敬老会やクリスマス会には行事食を提供したり、行事で外出した時には外食ができるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をとり、接種量の確認を行っている。水分補給に関しては、摂取量の少ない方は、水分チェック表を利用している。ご利用者に飲みたい物を聞き、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・誘導を行い、入歯の清掃・うがいの見守り介助を行うことで、口腔内の清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう、声かけ・見守り・介助を行っている。	職員は排泄チェック表を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声をかけてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。 日中は殆どの利用者はおむつを使用せず、リハビリパンツで対応している。 失禁による羞恥心や恐怖心を抱かぬよう、パッドも夜間と日中では使い分けをしたり、体型に応じた物を使用するなど、排泄の失敗を防ぐ工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と連携し、便秘の要望に取り組んでいる。体操を日課として行い、水分や野菜を多めに摂取していただき、それでも便秘が見られる人には、協力病院の協力の下、投薬や浣腸等で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は原則的に午前中に行っているが、行事等参加の場合は午後から入浴を臨機応変に行っている。利用者の希望や状況に応じて支援を行っており、ゆず湯や菖蒲湯などを取り入れ、季節を感じてもらっている。拒否する利用者は声かけを工夫し入浴できるよう支援している。	毎日午前中に入浴を行い、基本的に最低週2回は入浴ができるよう支援しているが、利用日毎に入浴を希望する利用者もおり、希望にそって利用者本位の支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず午後に入浴を勧めたり、職員を替えて再度声かけを行っている。 「入浴」という言葉に敏感に反応する利用者に対し、「診察があるから」などと別の声かけで脱衣所に誘導すると拒否せずスムーズに入浴できることがあり、声かけに工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて空き居室を利用したり、ホールの畳部分に布団を用意し、食後に休む時間を設け、無理をしない様、休養できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、服薬の管理をわかりやすい状態にし、間違いがないよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が楽しんで過ごせるような活動や外出（花見・紅葉見学・遠足・ドライブ）や同法人の行事へ参加している。利用者と一緒に調理をして楽しめるように工夫している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩は行っていないが、天候や気候を考慮し、花見や紅葉見学、外食会、水族館（アクアワールド）に行ったり、同法人の施設の行事（盆踊り・敬老会・運動会）に参加できるよう支援している。	事業所は交通量の多い道路に隣接しており、安全性の面から近隣の散歩は行っていないが、利用者の要望にそって車で近くの公園に出かけて外気浴を楽しんだり、近隣の芋畑を職員と一緒に見に行っている。利用者が自由に散歩ができないため、年間行事計画を立てて外出の機会を多く設けたり、市内にある同一法人の施設の行事に数多く参加ができるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や通帳を預かり、必要に応じて一緒に銀行に行き払い戻りの支援をしたり、外出の際買い物をしたり、ジュースの購入の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時にはすぐ対応し、円滑に運べるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が生活している家のような雰囲気と空間となっている。四季を感じられるように壁画や花を飾るなど工夫している。	食堂のテーブルに季節の花が飾られているほか、壁には季節の飾り付けをしており、季節感を演出している。食堂に加湿器を置いて乾燥予防に努めたり、トイレの換気を頻繁に行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が一緒になれるようにしたり、一人ひとりの性格等を考慮し、テーブルや席の配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用しているものや好みの物の持ち込みをしてもらっており、家にいるような雰囲気にし、安心や居心地良く過ごせるように配慮している。	内窓に障子を設置し、和風の落ち着いた雰囲気のある居室となっている。 泊まりの多い利用者にはできるだけ前回と同じ部屋を利用してもらい、混乱が生じないよう配慮している。 管理者は居室に表札を掛けることで自分の部屋だと主張することにつながると考えており、表札を掛けて宿泊に対する不安感を軽減させ、安心して泊まれるよう配慮している。 利用者はテレビや電気毛布、髭剃り、整容用具など馴染みの物品を持ち込みながら安心して宿泊している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、車椅子や歩行器で、自立して移動ができやすい環境作りをしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 ケアサポート田村

作成日 平成25年4月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	日々のケアの中で知り得た利用者の情報を介護日誌に記録するとともに、全職員で共有することを期待する。	業務日誌、介護記録の徹底を行い、全職員で共有する。	記入漏れのないよう、必ず月に1回は管理者又はケース記録担当者による確認を行い、指導する。	平成25年5月
2	33	契約書や重要事項説明書に事業所では看取りを行わない方針であることを明記するとともに、重度化した場合の具体的な対応指針を管理者や職員、医師などの関係者で話し合い、決定することを期待する。	契約書と重要事項説明書の再作成。重度化した場合の対応について話し合いを行い、決定する。	契約書・重要事項説明書に見取りを行わないことを明記する。重度化した場合の対応については、家族の意向を確認し、職員で話し合いを行う。	平成25年9月
3	35	事業所は2階にあり災害時の避難には困難が予測される為、災害時に多くの地域住民の協力が得られるよう近隣の商店や区長、地元の消防団等に働きかけ、協力関係を構築することを期待する。	近隣住民の協力を得られるよう働きかけを行い、消防訓練に参加して頂く。	6月に行う消防訓練の際、事前に中根花屋や神田書店やパチンコ店に呼びかけを行い、消防訓練に参加していただくことで協力関係を構築する。	平成25年6月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。